

ブリヂストン様 技術研修 2019

実地日：2019/07/18～2018/07/19

ブリヂストン化工品ジャパン渡辺様にお越しいただき、技術研修を実施しました。

1回 3、4チームごとに受講。(1日3回、計6回実施)

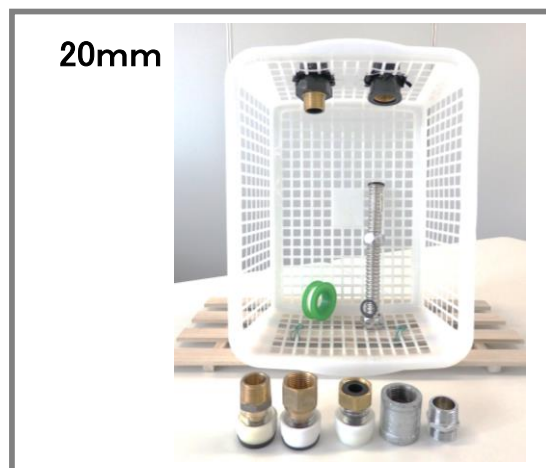
前半は渡辺様による、ブリヂストン様の会社説明と商品紹介、部材の梱包出荷までの作業説明、
後半は継手の理解と応用強化の為の接続体験、加工指示書修正テストを実施しました。



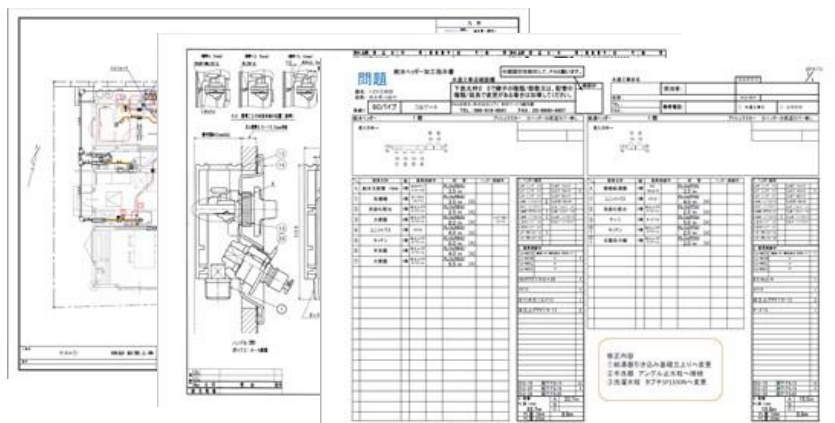
渡辺様による、会社説明および商品紹介の様子。

接続体験は13mmと20mmの2パターンの模型にて実施しました。

それぞれオス・メスの継手を固定した模型の他に、継手、ニップル、シールテープ等を準備。



加工指示書修正テストでは、よくある修正依頼内容にて加工指示書の修正と確認を実施しました。
加工指示書の他に、図面・器具詳細図を準備。





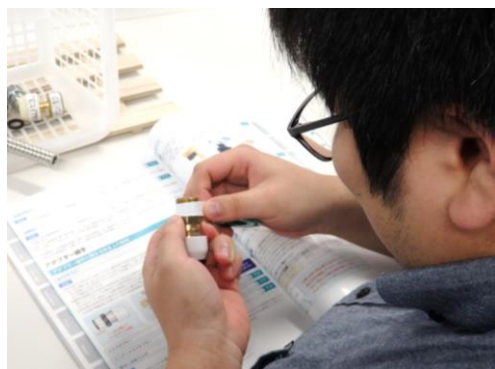
平行とテーパの違いなど、複数の種類のネジを観察して確認



実際にネジの接続を体験



ネジ同士をそのまま接続できないものには、ニップルを使用して接続



シールテープを巻いて



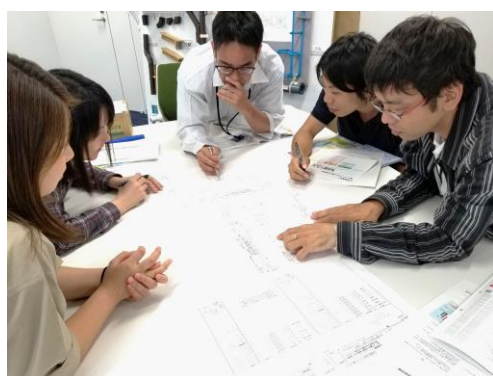
締め具合の差を実感



ニップル



様々な種類の継手



加工指示書の修正問題を協力して解く



カタログを見て部材をよく確認



回答と解説

今回の研修にあたり、ブリヂストン様より継手や配管以外にも
も
カタログを受講者全員分ご提供頂きました。
本当にありがとうございます。



感想(一部抜粋)

本人感想

資料・説明どちらも分かりやすくとても勉強になりました。

もらった資料は普段の業務でも使える資料で、水工店からの問い合わせの時などに確認できる為とても良いです。

また、なぜ「エリート」の継手は「エス」が多いのかなど気になっていた事も

この研修で解決し、スッキリしました。実例リストは少し難しかったですが、実際に

ありそうな問題で勉強になりました。加工指示書についても「エリート」様では

加工指示書を分解して使用しているのを初めて知りました。今後修正する場合はより注意が必要だと思いました。

1人1冊190分をいただきありがとうございました。ありがとうございました。

本人感想

研修ありがとうございました。

こちらの実作業ながら、継手に関し知識不足も感じていた所でした。

水工店様からの修正依頼も、指示通りに修正するのみで、どのような経緯でそうなるのか、少しあいまいに感じていました。

今回、研修を受けて、継手の仕組みや用途などを学び、実際の現場でどう作業をしているか、イメージができてきたように感じています。

今後、業務をしながら、さらに知識を深めていけるようにしたいと思います。

ありがとうございました、非常に有意義な研修となりました。

こちらもありがとうございました。

本人感想

糸内品後修正が入った際、継手一つ変われば加工指示書、図面等どこにかどう糸内品に反映されるのか、またその確認作業の大切さを改めて感じました。

部材出荷に関する資料はエフコがミスしてしまうと後の作業に大きく影響するので、システムに頼るだけではなく自分の理解を深めるとも良い機会になったので、今回のテーマは日々の業務に活かせるとても為になる時間でした。ありがとうございました。

本人感想

継手の変更について、知らない事が数点ありました。
口経の合わない場合の対応方法や、管種の違うパイプを併用する継手
など。また、業務で対応していない内容だったので、
とても勉強になりました。
ありがとうございました。

本人感想

今回の研習を経て、ねじの種類や接続の仕方、カタログの見かた等を知ら
ず良い経験になった。
ねじの種類については思っていたよりもテーパと平行の見分け方が難し
く状況に応じて使用する継手の違い等を学ぶ良い機会だった。
又、これまで曖昧だったカタログの見方も、以前よりも理解し、どうい
た用途で使用するのイメージしやすくなった。

本人感想

普段、加工指示書などで見ていたネジですが、器具類や用途に
よって取り扱う種類が変わるのは何となく理解してしまし
たが、実際に手に取って確認できたのは非常に良かったです。
また、変更によって継手が変わるのは指示があった場所だけで
なく、付随する箇所も変わるのでそれを追うことや、曖昧な指示
でも先方の意図を捨い上げることなど、この研習を通して担当
する業務に活かせることも多くありました。

本人感想

梱包出荷までの作業で、一番重要なのがエプロンで作成している加工指示書
であると、再認識しました。継手一つでも間違っていたら、現場や協力会社に
迷惑かけてしまう。細かなミス、小さなミスが全体に与える影響が大きいと感じ
ました。何より、会社の信頼を損ねかねない問題でもあるので、徹底して
ミスを減らすこと、部材や設計に関する知識と理解を深める必要があると
感じました。

